



大人が嘆いている場合じゃない!

(特活) せんだい杜の子ども劇場代表理事
齋藤 純子

皆様、ご家族お揃いで新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年中はコロナ禍の中、一方ならぬご支援とご協力を賜り、誠にありがとうございました。

コロナ禍は当然収束しない現実ではありますが、本年が皆様にとりまして幸多き一年となりますようご祈念申し上げます。

まずは通常総会が開催され、2020年度事業報告と決算、2021年度の事業計画及び予算が満場一致で承認されました事をご報告申し上げます。総会を開くにあたり、書面のみで執り行うことも考えましたが、例年通りのご案内をさせていただきました。久しぶりの再会でした。ご出席いただいた正会員お二人から直接ご意見を伺い、この一年の事業活動を縁の下から支えて頂いたことに感謝し、改めてせん杜が社会的責任をもって事業を停滞することなく進めていかなければいけないと肝に銘じた次第です。

2020年正月は2月に開催する「杜の子まつり in 仙台」に向け広報し準備を進めておりました。2月に入り新型コロナウイルスの感染拡大が始まりつつある状況となった時、せん杜会員の医師より「中止を決断することも大事」との助言を頂きました。得体の知れないウイルスに対して自分たちの脳裏に「本当に実施してよいものか…」と過っていたその時でした。この助言がなかったら、以後の事業の行く末を見誤ったのではないかとつくづく思います。社会的課題を解決するという思いが強すぎると、つい自分たちの主観で動いてしまいそうになる。この時に社会とつながり、多面的そして専門的見地から客観的に助言をいただくことが如何に大切か。何より助言してくださる方がせん杜の傍らに居ることをこれほど強く感じた一年はありませんでした。「何を優先するのか」という事に逃げずに向き合わざるを得ない一年でもありました。

3月に入り、児童館や児童クラブは「最小限の児童受け入れ」が6月の新学期まで続きました。子どもたちは年度の節目を体験せずに新学期を迎え現在に至っていますが、新しい生活様式の基でよく懸命に頑張っています。気懸りなことは、コロナ禍によって年齢に応じた発達段階が停滞している、体は大きくなっているが体力が劣っている、バーチャル体験が多くなり相手との適度な距離感が掴めない（これはソーシャルディスタンスと区別しなければなりません）、言葉で上手に表現できない等々です。一方で、子どもたちが新しい生活様式の中でも創造力を発揮している！ことを目の当たりにしています。あそぶ力、仲間と共に一つのことを成し遂げる力の旺盛さも健在です。

With コロナの中、大人が知恵を絞り、子どもたちが活動できる環境を作っていくことに理事会は行きつきました。新しい生活様式の中で、せん杜本体事業をどこまで・どのように表現していくのか。社会と繋がりながら児童館や児童クラブで実践してきた積み重ねを大きなヒントにして、次の段階へと繋げていく気持ちを強く持って進みたいと思います。こんな時こそ、あそびの達人である子どもたちに聴く！こともしかりですね。

私たち東北人は、東日本大震災とコロナ禍という未曾有の災難をこの10年の間に経験してしまいましたが、この二つから多くのことに気づかされています。苦しいけれど希望をもって前を向いて歩み続ける、未来を生きる子どもたちのために大人が踏ん張る等々。「つながる」という事も、これからは本当の意味で「心と心がつながる」と解釈しましょう。自らが向上心を絶やさず進む強さを意識しましょう。負けてられないぞ!と手を携え進みましょうよ。

2021年 元旦